

導入期（5～7歳）におけるピアノ演奏指導のための教材開発：
リズム指導用教材の開発と活用事例

黒 田 美 絵

Development of Novel Teaching Materials for Elementary-Level Piano Learners:
Material for Rhythm Exercises and Its Application to Practical Education

Mie Kuroda

The author has developed various sorts of novel teaching materials for elementary-level piano learners, and those materials have been applied to a musical education in the “Lemie Music Academy”. In this article, one of those materials for a rhythm education, which are called “Rhythm Cards”, is introduced. In addition, the article also deals with an example of its application to the practical piano education. The author demonstrated that by applying the “Rhythm Cards” the learners could effectively understand rhythm patterns in the conventional books for piano practice. The author proposes that the educational method with those teaching materials should be called as the “Lemie Method”.

キーワード

ピアノ教育 Piano Education, ソルフエージュ Solfeggio,
読譜 Reading Music, リズム指導 Rhythm Education

所属

レミエ音楽院 Lemie Music Academy,
広島文化学園大学 Hiroshima Bunka Gakuen University
学芸学部 Faculty of Arts and Sciences 音楽学科 Department of Music

1. はじめに

5～7歳の導入期の子ども達にピアノ教育を行う場合、『バステイン』、『ラーニングトゥプレイ』、『バーナム』、『メトードローズ』、『バイエル』などの様々な優れた教本が用意されており、この年齢層の子ども達のピアノ教育を行っている教室では広く活用されている¹⁾⁻⁵⁾。これらの教本には、ピアノ曲を学びながら演奏技術と音楽性が身につくような種々の工夫がなされている。

筆者は1981年から個人ピアノ教室「レミエ音楽院」を運営し、これまで30年間にわたって導入期から指導者レベルまでの様々な学習者に対してピアノ教育を行ってきた。この経験から、特に導入期における学習者にとっては、どんな

にすばらしい既存の教本を用いても、楽譜を理解してその楽譜どおりにピアノを演奏することが決して容易でないことを実感している。また、このために練習曲をなかなか先に進めることができず、学習者にとってはピアノ学習が嫌いになる原因の一つとなっている。そこで、筆者は、独自にいろいろな副教材を開発し、これらの独自教材を既存の教本と組み合わせて利用することで、学習者の理解を助け、比較的短期間での演奏技術の向上に成果を挙げている。本報では、筆者がこれまでに開発したピアノ教育用教材の中から、リズム指導用教材である「リズムカード」を紹介する。

ピアノ演奏を行う場合、

1) 楽譜からリズムを読み取って、リズムどおりのタイミングで鍵盤を押さえる

2) 五線譜上で音符の位置を読み取り、音符の位置を理解して正確に鍵盤を押さえるの二点が最も基本的な動作となるが、5～7歳の導入期の学習者にとって、楽譜を見ながらこの2つの動作を同時に行うことが非常に困難である。一方で、成人の場合、初習者であってもこの2つの動作を同時に行うことはそれほど困難ではないようである。ピアノ学習者の年齢がまだ低い場合、脳の認知能力とそれと連動した運動能力が未成熟であるため、このような困難が発生すると考えることができる⁶⁾。従って、筆者は、導入期の学習者にはこの2つの動作を別々に練習させることで、ピアノ演奏の基本動作を効率よく学習できるのではないかと考え、これらを別々に学べるような教材を開発してきた。

リズムの習得には、

- 1) 音符・休符の種類（音価）の理解
- 2) 音符・休符の組み合わせによるリズムパターンの把握
- 3) 認識したリズムパターン通りに体を動作させる

ことが要求される。また、これらの一連の動作を瞬時に行う必要があるため、導入期の学習者にとっては、リズムを正しく打つことが困難である。特に、1)と2)は楽譜の音価を瞬時に読み取る力を要するが、読譜力が十分に備わっていないため、リズム学習につまずいてしまう子ども達が多い。

しかしながら、既存の教材には「読譜力の獲得」という点に重心をおいて開発されたものがあまりなく、導入期の学習者が読譜力を身につけるためには、一般に多くの苦勞と長い時間をかける必要があり、その過程で挫折してしまう学習者を何人も見てきた。つまり、低年齢層の初学者にも理解しやすく効率的に読譜力をつけられる教材を既存の教本と組み合わせると、特に導入期にある学習者にとってはピアノ演奏技術が短期間に上達すると期待できる。

著者は、これまでに、このような特徴をもついろいろな教材を開発し、これらの教材を実際のピアノ教育の現場で活用しながら、改良を重ねてきた。本論文では、この中から導入期（5～7歳）の学習者用に開発したリズム指導用教材である「リズムカード」を取り上げ、実際のピアノ教育における「リズムカード」活用方法と教育に対する効果を紹介する。

2. リズム指導用教材「リズムカード」の開発

ここでは、筆者が開発したリズム指導用教材とこの教材を実際に使用したレッスンの事例・効果を紹介する。筆者はこの教材を「リズムカード」と呼んでおり、一般的な教本と組み合わせで活用している。筆者の開発した教材は、既存の教材と組み合わせで使用することを前提としている。すなわち、既存の教材の理解を助け、学習進度を高めることがこれらの教材を利用する目的である。

種々の音価の音符・休符を組み合わせると、1小節を単位とした無数のリズムパターンを考えることができる。実際のピアノ演奏曲には非常にたくさんのリズムパターンが各小節に出現するが、初級レベルの指導で全てを網羅することは不可能である。しかしながら、導入期の学習者用の教本に出てくるリズムパターンはこの中の一部に限られている。本教材は初級教本を使ったピアノ学習の補助を目的としているので、「リズムカード」として準備するパターンも初級教本に出てくるものに限定することができる。

そこで本研究では、まず、導入期の学習者用教材として、筆者がよく利用している『うたとピアノの絵本』(呉暁)⁷⁾に含まれる全ての小節を検討して、出現するリズムパターンの分析を行った。この教本は3巻からなり、この中に記載されているすべての楽譜の全小節から1小節を単位とするリズムパターンを抽出し分析した結果、全巻を通して下記のようなリズムパターンが含まれることが明らかになった。

1) 4/4 拍子：16パターン

- (ア) 4分音符と4分休符の組み合わせで5パターン
- (イ) 4分音符, 4分休符, 2分音符の組み合わせで4パターン
- (ウ) 8分音符, 4分音符, 4分休符の組み合わせで5パターン
- (エ) 符点2分音符と4分音符の組み合わせで2パターン

2) 2/4 拍子：4パターン

- (ア) 4分音符と4分休符の組み合わせで2パターン
- (イ) 8分音符, 4分音符, 2分音符の組み合わせで2パターン

3) 3/4拍子：11パターン

- (ア) 8分音符，4分音符の組み合わせで2パターン
- (イ) 8分音符，4分音符，4分休符の組み合わせで1パターン
- (ウ) 4分音符と4分休符の組み合わせで5パターン
- (エ) 4分音符と2分音符の組み合わせで2パターン
- (オ) 4分休符と2分音符の組み合わせで1パターン

この中で、『うたとピアノの絵本』第1巻には4/4拍子は12パターンある。4/4拍子に限って言えば，2巻以降ではこれに4パターン増えるだけなので，はじめからこの16パターンをしっかりと習得しておけば，『うたとピアノの絵本』全3巻の4/4拍子のリズムパターンを全てマスターできることになる。

このように，演奏技術の学習がそこまで到達していなくても，必要なリズムパターンを先にマスターすることにより，以降のピアノ学習がスムーズに進むことはいうまでもない。演奏練習の時間を割いてリズム指導を行う方法は，最初は遠回りのように感じるが導入期よりリズムパターンを理解・習得していることがピアノ演奏の上達への早道であるとこれまでの経験から筆者は確信している。

筆者は『ラーニングトゥプレイ』²⁾も教本としてよく利用しているが，これについてもリズムパターンの分析を行った。この教本は第1巻～第4巻まであり，6歳くらいから取り組むのが適当であると考えている。第4巻を終了したら，『ブルグミュラー25練習曲集』に取り組むことができるしっかりとした基礎を習得できるようによくプログラムされた教本であると考えている。

リズムパターンを調べた結果，『ラーニングトゥプレイ』は上述した『うたとピアノの絵本』よりもたくさんのパターンが含まれることが分かった。特に，『うたとピアノの絵本』には含まれなかった三連符を含むパターンや16分休符を含む複雑なリズムなども出現してくる。さらに6/8拍子や3/8拍子のリズムも含まれていた。従って，『ラーニングトゥプレイ』に取り組む学習者はさらにしっかりとこれらのリズムパターンをマスターしておかないと，期待したようには演奏技術の向上が見込めず，上達には長い時間が必要となる。

このように利用する教本により，学習すべきリズムパターンは異なるので，学習者の学習進度に合わせた「リズムカード」を準備する必要がある。筆者が作成した「リズムカード」を図1に示す。図1には例として，4/4拍子用のカードの一部を示している。「リズムカード」は，厚手の紙（裏面から透けないもの）の表面に，図1のように音符と休符で1小節分のリズムパターンを示し，ラミネート加工したカードである。筆者は，導入期の学習者用としては，

- 4/4拍子
- 2/4拍子
- 3/4拍子
- 6/8拍子
- 3/8拍子

の5種類の拍子で，初級の教本に出現するすべてのリズムパターンのカードを作成し活用している。

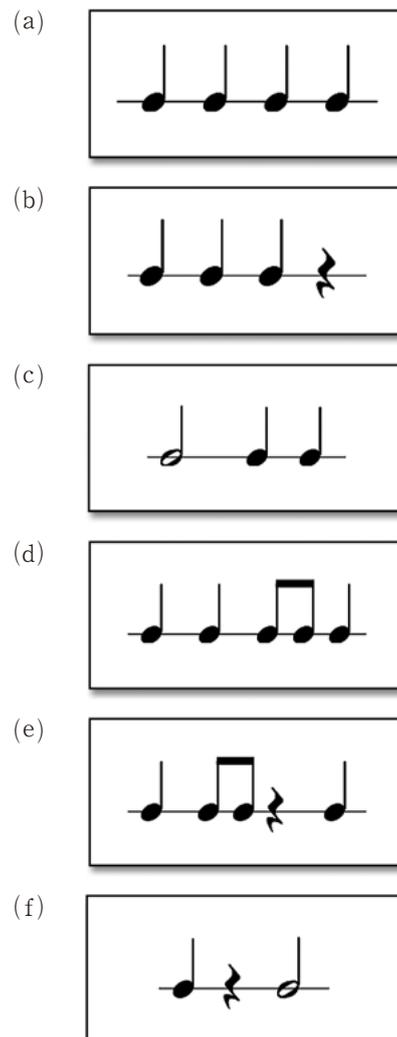


図1 開発した「リズムカード」：4/4拍子のリズムパターン指導用のカードの例

3. 「リズムカード」の活用事例

「リズムカード」を利用したレッスンの事例を紹介する。導入期にある学習者の特徴として、

- 1) 飽きやすい：集中力が長続きせず、同じことを長時間できない
- 2) 楽しいと思えることにしか興味を示さない
- 3) 細かい動作が苦手である

という3点を挙げることができる。このため、導入期の学習者に「リズムカード」を使って、指導の効果を挙げるためには、使い方にもいろいろな工夫が必要である。そこで、筆者はこのカードにゲーム的な要素を取り入れて、実際のレッスンを行っている。通常は下記のような方法で活用している。

【「リズムード」活用方法】

学習者：1名～数名まで対応可能

指導者：1名

方法：例えば4/4拍子の場合

- ① 全てのカードの中から、4/4拍子（4拍）が表示されているカードのみを学習者自身で選択する
- ② 選ばれた4/4拍子のカードを裏返してランダムに並べる
- ③ 学習者はカードの中から一枚だけを選び、そのカードに示されたリズムで手をたたく。
- ④ 学習者によっては、このときに「1と、2と、3と、4と」のような歌を歌いながら手をたたくと効果的である。歌は学習者の発達に合わせて「たん・たん・たん・たん」や「4分・4分・8分・8分・・・（音符・休符の音価で歌う）」などのように変えることもある。
- ⑤ リズムどおり正しく手をたたいたら、そのカードは自分の持ち点となる。
- ⑥ これを何度か繰り返し、得られた得点の総計を求める。

この方法のポイントはゲーム感覚で行うために、学習者が楽しんで取り組めることである。筆者の教室では、ピアノレッスンの初めか最後の5分程度（最長でも10分程度）を使って、「リズムカード」に取り組んでいる（図2）。一度に長時間行うと飽きてしまうため、次回以降に興味を示しにくくなる。従って、学習者が「もう一枚やりたい」と言っている間に「続きはま

た次のレッスンでね」と言って止めさせることが大切である。

うまくリズムを打てない場合には、指導者がお手本を示しながらマネをさせると効果的である。導入期の年齢（5～7歳）の子どもは親や指導者の模倣をすることを好み、手本を上手に模倣することができるといわれている⁸⁾。実際に、手本を示すことで、すぐにそのリズムを打てるようになる。ただし、上手くリズムをたたくことができなくても、何度も一枚のカードを繰り返し練習させることは逆効果である。学習者が飽きる前に、次のカードに進むのがコツである。

また、毎回リズムを手でたたくだけでなく、カスタネットのような打楽器や鈴を使っても良い。ピアノの鍵盤を1つだけ人差し指で叩かせることも効果的である。楽器を取り入れると、手をたたくのとは少し違う演習であると感じられるため、毎回飽きさせずにリズム指導を行うことができる。



図2 「リズムカード」を用いたリズム学習の様子

「リズムカード」を使ったリズム学習が進んできたら、引くカードの枚数を増やしていく。例えば、任意の二枚のカードを引かせて並べさせると、2小節分のリズムをたたくことができる。進度に応じて一度に引く枚数を増やすことで、ゲームのステージが上がるのと同様の効果があり、学習者は飽きることなく、毎回継続的にリズム練習に取り組むことができる。

次に、実際に筆者が行ったリズム指導の実例を以下に紹介する。

【「リズムカード」の活用事例】

対象：A君（6歳男子，幼稚園児）

少し不器用で活発であり、平均的な理解力を

もつ男の子である。これまで、音楽の学習経験は全くなく、6歳の4月からはじめてピアノ学習を開始した。

自宅楽器：電子鍵盤楽器

使用教本：『うたとピアノの絵本』第1巻

使用教本の特徴：ト音記号のみの4小節～8小節楽譜であり、題名にあったカラーの絵がついていて子供のイメージや興味を引き出しやすい。

4月（ピアノ学習開始）

学習目標：4分音符と4分休符からなるリズムパターンの習得する

- 1) 指導者を模倣してたたく練習
- 2) カードを見ながら、一人でたたく練習
- 3) ゲーム開始

5月

学習目標：前月までの学習に加え、2分音符、付点2分音符および全音符が含まれるリズムパターンを習得する

- 1) カードの中から4/4拍子のリズムパターンだけを集める
- 2) カードめくりゲーム

6月

学習目標：前月までの学習に加え、2分休符、付点二分休符、全休符、8分音符および8分休符を含むリズムパターンを習得する

- 1) カードの中から4/4拍子と3/4拍子を分けて集める
- 2) カードめくりゲーム：二人の生徒で競争させる
- 3) 出来なかった場合は、そのカードのリズムを一緒にたたいて習得させる

7月

学習目標：前月までの学習に加え、6/8拍子、3/8拍子で使用する8分音符、8分休符、4分音符を含むリズムパターンを習得する

- 1) カードの中から6/8拍子、3/8拍子を選ばせて、リズム学習させる

8月

学習目標：初級レベルのすべてのリズムパターンを習得する

- 1) すべてのカードを使って、同様にカードめくりゲームを行う

このようなリズム演習を繰り返し行うことにより、初級の教本に出現するリズムパターンを半年以内でほぼ全て習得できた。その結果、『うたとピアノの絵本』に含まれるリズムパターンは完全にマスターできたので、第2巻（左手用）を省略して、第3巻（両手用）に進んで学習しても何ら問題はなかった。このように、「リズムカード」を用いたリズム指導を演奏指導と平行して行うことで、途中の課程を省略しても問題なく理解することができ、学習進度の画期的な向上が認められた。

ここで、「リズムカード」をリズム指導に活用する場合、6/8拍子と3/8拍子において、同じ4分音符でも拍の数え方が違うため、戸惑う学習者が非常に多いので、このような場合には手本を見せるとともにわかりやすい説明と十分な演習を行い、拍子感の違いなども含めしっかりと指導する必要がある。

また、ピアノの演奏指導中に、リズムを間違えて演奏していることに指導者が気づいた場合は、楽譜を見ながらリズムだけをたたかせる、あるいは同じパターンの「リズムカード」を取り出してたたかせる場合もある。演奏指導の途中でも、このようなリズム演習を取り入れることで、ほとんどの事例において正しいリズムで演奏できるようになった。音楽の流れを感じながら拍子感を身につけることは、導入期だけでなく、より学習の進んだ学習者がピアノ演奏を行うためにも必要不可欠である。

「リズムカード」を利用した教育の効果を評価するために、リズム演習を行ったあとにアンケートと試験を実施した。アンケートは、七名の被験者に対して表1に示す項目についての質問を行い、五段階で解答してもらった。

表1 実施したアンケートの内容と結果

質問1：「リズムカード」を使ったリズム学習は楽しかったですか？					結果（平均）
楽しかった	少し楽しかった	どちらでもない	少しつまらなかった	つまらなかった	5.0
5	4	3	2	1	
質問2：このようなリズム学習をまたやってみたいですか？					結果（平均）
やってみたい	少しやってみたい	どちらでもない	あまりやりたくない	やりたくない	4.9
5	4	3	2	1	
質問3：「リズムカード」を使った学習は簡単でしたか？					結果（平均）
簡単	少し簡単	どちらでもない	少し難しい	難しい	3.9
5	4	3	2	1	

また、学習効果を評価するために、

- 1) 実施した「リズムカード」の中からランダムにカードを選択しリズムをたたく
- 2) 使用している教本に掲載されている楽譜の中からランダムに楽譜を選択し、初見で1小節だけリズムを手でたたく

という試験を演奏指導のあとに行った。

アンケート調査の結果、「リズムカード」を利用したリズム演習が「おもしろい」およびこの演習を「またやってみたい」という項目で、非常に高い得点が得られた。これは、ゲーム性を取り入れ、短時間で飽きる前に終了するという「リズムカード」活用方法の工夫の効果が現れたものであると考えることができる。一方で、この演習は「簡単」であるかという質問に対しては、平均で3.9点という結果になった。これは、筆者の行っているリズム演習では、学習者がそれまでに経験していないリズムパターンも含まれるためであると考えている。上述のように、本演習では、まだ『うたとピアノの絵本』第1巻に取り組んでいる学習者でも、全3巻に含まれるすべてのリズムパターンを演習することになる。従って、全く経験していないリズムパターンを引き当てた場合には、少し難しいと感じるようである。しかしながら、難しいと感じるパターンであっても、カードを利用して楽しく、飽きずに繰り返し学習ができるため、何度か繰り返すことですべてのリズムパターンを体得できる。

同じ七名の被験者に対して、2つの学習効果評価試験を行った結果、全員、どちらの試験も完全にこなすことができた。特に、試験2で教本中の楽譜をランダムに指定してリズムをたたかせた場合でも、初見にもかかわらず全員完全にリズムをたたくことができ、高い学習効果を挙げていることを確認した。

このように、アンケートと試験の結果により、当教材がおおむね高い学習効果を上げることがわかった。また、学習者はこの教材を楽しみながら取り組んでいることも明らかになった。脳科学的にも、この時期の子どもは楽しみながら学習することで、知識や技術を体得していくといわれている⁹⁾。筆者の経験でも、学習者が「つまらない」と感じるような学習にはほとんど効果がなく、継続的に繰り返し取り組ませることも非常に困難である。筆者が開発した「リズムカード」とその活用方法では、リズム学習にゲーム感覚で取り組むことができる

ため、継続的に繰り返し学習が容易であり、確実に高い学習効果を上げることが可能であることを本研究では明らかにした。

4. まとめ

以上本報では、筆者の経験に基づいて開発した教材である「リズムカード」とその活用事例を紹介した。「リズムカード」をはじめとした種々の教材は、適切に開発するとともに、適切な方法で音楽教育に取り入れることで、画期的な学習効果を挙げられることを示した。

導入期の学習者は、指導者の「ものまね」でピアノを演奏することが得意である。このように模倣によりピアノ演奏をすることは可能ではあるが、1) リズム、2) 鍵盤の位置/楽譜上の音符の位置/音程の3つの対応関係、3) 任意に指を動かす運動能力、この3点を理解し、習得する事で、はじめて本当の意味で「ピアノが弾ける」ということになる。従来は、「指の運動能力」の習得に重点をおいた指導が主になされてきた。しかしながら、ソルフェージュ能力に関連する、1) と2) の能力も備わっていなければピアノ演奏はできない。既存の教本では、この3つの能力を同時に学べるようになっていたが、導入期の学習者にとっては、これらを同時に学習することは困難であり、別々の認知と動作に分けて学習を行うことが、指導効果を高めると筆者は考えている。しかし、これらを習得するための基礎教育には、単調な動作を繰り返し継続的に行うといった演習が不可欠であるため、特に導入期の学習者にとっては、楽しみながら学習に取り組むことができるような要素を組み込むことが重要である。

指導者による教育方法の創意工夫は特に導入期におけるピアノ教育の重要なポイントであるが、このためには子どもの発育に応じた身体機能や認知能力についての理解が不可欠であろう¹⁰⁾。本研究では、筆者の経験論に基づいた教材開発と活用事例について論じたが、今後は認知科学や発達学などの理論的な視点を加えた教材・活用法の開発も必要であると考えられる。個々の学習者のパーソナリティーに対応した教材とその活用方法を採用することで、学習効果は格段に向上することが期待される。

参考文献

- 1) ジェイムズ・バステイン『バステインピアノベーシックスピアノ』東音企画, 2009.
- 2) メルヴィン・ステッカー, ノーマン・ホロヴィッツ, クレア・ゴードン『ラーニングトゥプレイ』全音楽譜出版社, 1980.
- 3) エドナ・メイ・バーナム『バーナムピアノ教本』全音出版楽譜出版社, 2008.
- 4) エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド『メトードローズピアノ教則本』音楽之友社, 1998.
- 5) フェルディナント・バイエル『こどものバイエル』全音楽譜出版社, 1998.
- 6) 平井信義『幼児の身体発達と保育』フレーベル館, 1970.
- 7) 呉暁『うたとピアノの絵本』音楽之友社, 1989.
- 8) 伊藤隆二『幼児教育学全集〈3〉 心身の発達と教育』小学館, 1971.
- 9) 平山諭, 保野孝弘『脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房, 2003.
- 10) 川合章『子どもの発達と教育』青木書店, 1975.